

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	Grabity LiVE		
○保護者評価実施期間	令和6年1月1日		～ 令和6年12月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1	(回答者数) 1
○従業者評価実施期間	令和6年1月1日		～ 令和6年12月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月4日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちがのびのびと活動できる十分なスペースが確保されており、快適な環境で過ごせることが評価されている。	子どもの安全を確保するための計画が策定され、職員間での共有が徹底されており、安心できる支援体制が構築されている。	子どもや保護者が気軽に相談や申し入れができる場を整備し、その存在を明確に周知することで、安心して意見交換ができる環境を作る。
2	環境が清潔で、子どもたちが心地よく過ごせるように工夫されており、活動内容に応じた空間づくりが行われている。	子どもたちが事業所に通うことを楽しみにしているという結果から、日々の活動が楽しく魅力的なものになるよう意識されている。	事故防止マニュアルや緊急時対応マニュアルなどの内容を保護者にも定期的に説明し、理解を深めてもらう機会を設ける。
3	定期的な面談や子育てに関する助言など、保護者支援が積極的に行われており、家庭との連携がしっかり取られている。	面談や助言など、保護者とのコミュニケーションを定期的に実施することで、家庭と事業所のつながりを強化している。	避難訓練や緊急時の対応訓練の実施状況を定期的に報告書やお便り、掲示などで保護者に共有し、透明性を高める。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	子どもや保護者からの相談・申し入れの体制は整備されているものの、その存在や利用方法が十分に周知されていない。	保護者様への重要事項に関する情報発信や説明が不足しており、内部での実施内容が十分に外部に伝わっていない。	相談窓口の設置や担当者の明確化、利用方法の掲示などを通じて、相談・申し入れがしやすい環境を整備する。
2	事故防止や緊急時対応のマニュアルは存在するが、保護者への周知が不十分であり、認知度が低い。	相談や申し入れがしやすい雰囲気づくりや、具体的な相談窓口の掲示・案内が不足しており、保護者にとって利用しにくい環境になっている。	保護者様向けに定期的な説明会を開催し、マニュアルの内容や緊急時対応について具体的に説明することで、保護者様の安心感を高める。
3	防災訓練や緊急時の訓練は実施されているものの、その内容や実施状況について保護者への報告が不足している。	事業所内での危機管理体制は整備されているが、保護者様と共有するための工夫や機会が少なく、意識のズレが生じている。	訓練の実施報告書や写真付きの報告、掲示物などを活用して、訓練内容や子どもたちの様子を保護者様と共有する。